

総括

■ 種別

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」を適用して審査を実施した。

■ 認定の種別

書面審査および7月19日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」認定

■ 改善要望事項

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」
該当する項目はありません。

1. 病院の特色

貴院は2002年よりリハビリテーション専門病院として開院以来、回復期リハビリテーション病棟を徐々に拡張し、2006年には3病棟、2019年には4病棟200床の病棟構成になった。2004年からの継続的な病院機能評価受審により、医療の質の担保・向上に努めてきたが、リハビリテーション科専門医も複数名配置した上で、回復期リハビリテーション病棟に特化した高度・専門機能の受審となった。入院によるリハビリテーション医療から地域リハビリテーションにも次第に力を入れており、2019年には訪問リハビリテーションを開始し、地域リハビリテーション・ケアサポートセンターを開設した。さらにドライブシミュレーターの導入や復職支援をめざしたフォローアップ外来など、生活期を見据えた取り組みの実績が蓄積しつつある。今回の病院機能評価受審を契機に、地域リハビリテーションの中心として、さらなる発展を遂げることを祈念する。

2. 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

回復期リハビリテーション病棟運営のための理念や基本方針が定められ、利用者や職員に周知されている。365日充実したリハビリテーション・ケアを提供するための専門職が配置され、常勤医師9名のうち、3名がリハビリテーション科専門医である。病棟運営は運営会議を中心としたフロアマネジメントが実施され、運営上の課題の抽出や対策立案を行っている。患者の安全確保については、組織体制、マニュアルの整備・見直し、インシデント・アクシデントレポートに基づく検証、研修やシミュレーションなどが適切に実施されている。療養環境も整備され、個々の患者にカードキーを貸与し、運動・認知機能に応じた院内のアクセス範囲を定め、

活動を自律的に促す仕組みは高く評価される。専任理学療法士が車椅子等を包括的に管理し、進捗に応じて最適化する取り組みも秀でている。

病院として定めた臨床指標が定期的に収集・集計され、委員会等で業務改善に活用されている。回復期リハビリテーションに関する教育研修は、職種横断的な内容も含めて体系的に実施されており、FIM等の評価の正確性を担保する研修も行われている。入院患者は全て急性期病院からの紹介であり、紹介・情報収集・入院判定・受け入れのプロセスが多職種で組織的に行われている。自宅復帰後や施設入所後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて生活期機関に各職種から情報提供がなされている。復職支援の必要な患者は自院でフォローし、就労支援会議も活用して、支援を継続している。自宅退院患者の大半は他機関でのフォローとなるが、退院3カ月後のアンケートなどで生活状況の把握に努めている。

3. 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

リハビリテーション科専門医と他の専門性を有する医師が専門性を補完しながら、診療に当たっている。医学的な管理に加えて、多職種チームによるリハビリテーション・ケアの進捗や患者の実生活の状況を踏まえて、患者・家族に個別的な指導・支援を行っている。専門医の育成にも継続的に取り組んでいる。看護・介護職はそれぞれ看護・介護計画を立案し、他職種と協働して自宅復帰を目指したケアを実践している。ケア項目カンファレンスを毎週開催し、疾患別リハビリテーション時間以外の活動性を高めるための自主練習やレクリエーション活動を適切に提供している。

療法士はそれぞれの専門性に応じた標準的な評価に基づき、訓練プログラムを作成し、訓練場面の活動の生活場面汎化にも努めている。社会福祉士は定期的な面接や患者・家族面談へ医師の同席、各種カンファレンスへの参加を通じて、個人因子や環境因子、患者・家族の意向などを踏まえたリハビリテーション・ケア計画や目標の設定に貢献している。管理栄養士は標準的な栄養スクリーニング、低栄養評価や他職種と協働した摂食・嚥下機能の評価、NST活動等を通じて、最適な食事を提供している。

4. チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

入院当日に各職種が評価を行い、夕方のカンファレンスで安全のための環境設定や初日における注意点などを共有している。1週間後の初期カンファレンスで各職種の専門的な評価およびリハビリテーション・ケア計画が共有・議論され、医師が看護師や社会福祉士同席のもと、リハビリテーション総合実施計画書の内容を患者・家族に説明している。1日平均8単位の疾患別リハビリテーションに加えて、集団運動・レクリエーション・自主練習の提供や「患者参加型ファイル」の活用を通じて、多職種が患者の主体性を高めている。進捗は定期カンファレンス、電子カルテの記載、院内メールに加えて、評価や進捗が一覧できる「新評価チャート」等を活用して適切に行われている。

定期カンファレンスでは決められた進行表に基づいて議論を行い、双方向的に行

われるプロセス管理が実現しており、高く評価される。新たな課題解決にあたる職種や方法、期間などが具体的に設定され、PDCA サイクルが回っている。入院早期から介護能力や家屋の状況を勘案した上で退院時目標を設定して、自宅環境の調整や介助指導、介護サービスなどの社会資源の導入を検討し、退院までに順次実行している。薬剤師や管理栄養士による患者・家族への指導・支援も適切に行われている。フォローアップ外来では復職を目指す患者に対して継続的な支援が行われている。

1 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

評価判定結果

1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	Ⅱ
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	Ⅱ
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	Ⅱ
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	Ⅱ
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	Ⅱ
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	I
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	Ⅱ
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	Ⅱ
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	Ⅱ
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	Ⅱ
1.4.2	自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している	Ⅱ
1.4.3	自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	Ⅱ

2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

評価判定結果

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	Ⅱ
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.0	作業療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.2	療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.3.3	療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.3.4	療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ

2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.5	回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮	
2.5.1	管理栄養士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.5.2	管理栄養士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.5.3	管理栄養士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.5.4	管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ

3 チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

評価判定結果

3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	Ⅱ
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	Ⅱ
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅱ
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	Ⅱ
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	I
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅱ
3.4	自宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	Ⅱ
3.4.2	自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	Ⅱ